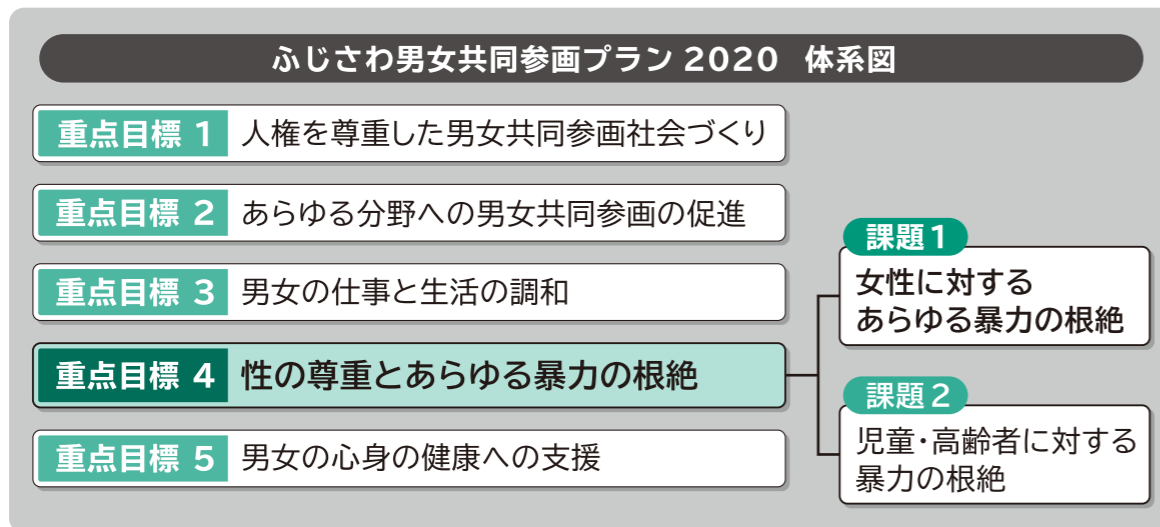


4 計画の位置づけ

本計画は、「ふじさわ男女共同参画プラン2020」の重点目標4「性の尊重とあらゆる暴力の根絶」の課題1「女性に対するあらゆる暴力の根絶」に関する施策を体系的に位置づけるものとします。

また、DV防止法第2条の3第3項の規定に基づく市町村基本計画とします。



5 計画期間

計画期間は、2013年度(平成25年度)から2020年度(平成32年度)までの8年間とし、「ふじさわ男女共同参画プラン2020」と連動します。

ただし、社会情勢の変化、DV防止法の改正等により、新たに盛り込むべき事項が発生した場合には、必要に応じて見直すこととします。

6 他の計画との関連

本計画は、「かながわDV被害者支援プラン(平成21年度～平成25年度)」の内容を踏まえ、整合性を図った計画とします。

第

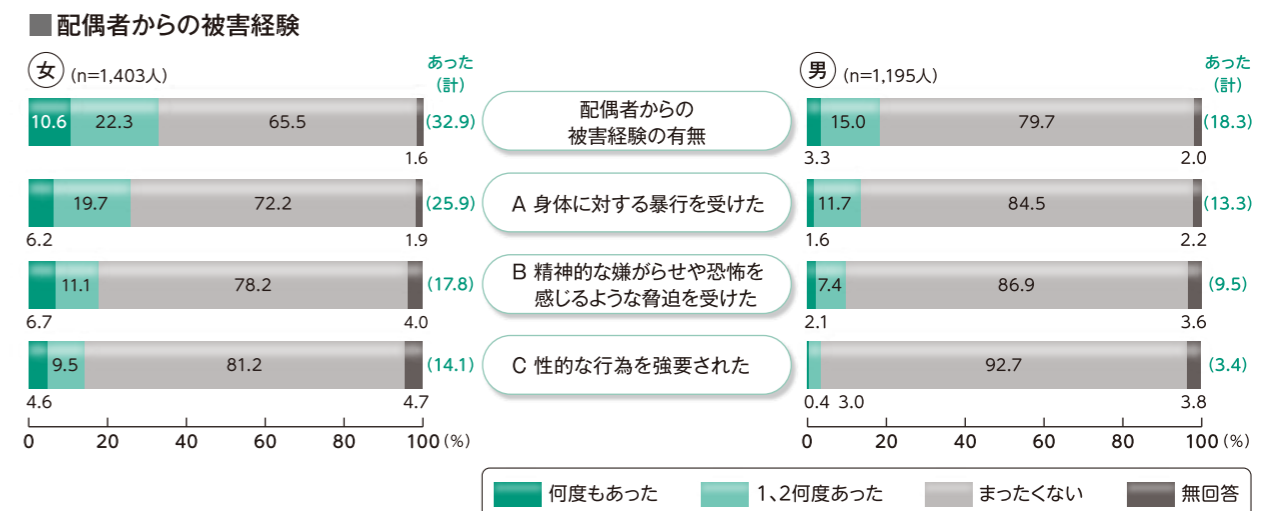
2 配偶者暴力被害等の現状

1 暴力の被害経験

(1) 配偶者からの暴力の被害経験(全国の状況)

内閣府が2011年度(平成23年度)に実施した「男女間における暴力に関する調査」によると、配偶者(事実婚や別居中の夫婦、元配偶者を含む)から、「殴る、蹴るなどの身体的暴行」、「精神的な嫌がらせや、自分もしくは自分の家族に危害が加えられるのではないかと恐怖を感じるような脅迫を受けた(心理的攻撃)」、「いやがっているのに性的な行為を強要された(性的強要)」のいずれかを受けたことがあるという人は、女性では32.9%、男性では18.3%となっています。

このことから、女性の約3人に1人が何らかの暴力を受けたことがあり、約10人に1人は何度も受けていることがわかります。

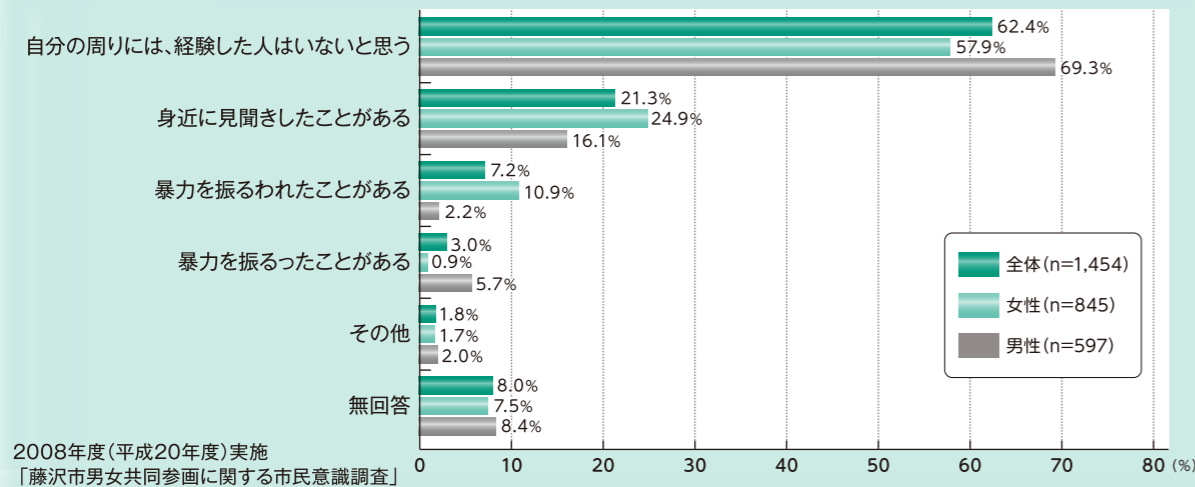


(2) 暴力を振るわれたり、暴力を振るったり身近で見聞きしたことはあるか(藤沢市の状況)

2008年度(平成20年度)に実施した「藤沢市男女共同参画に関する市民意識調査」で、「暴力を振るわれたり、暴力を振るったり、身近で見聞きしたことはあるか」を聞いたところ、最も多かったのは「自分の周りには、経験した人はいないと思う」(62.4%)で、女性では57.9%、男性では69.3%となっています。

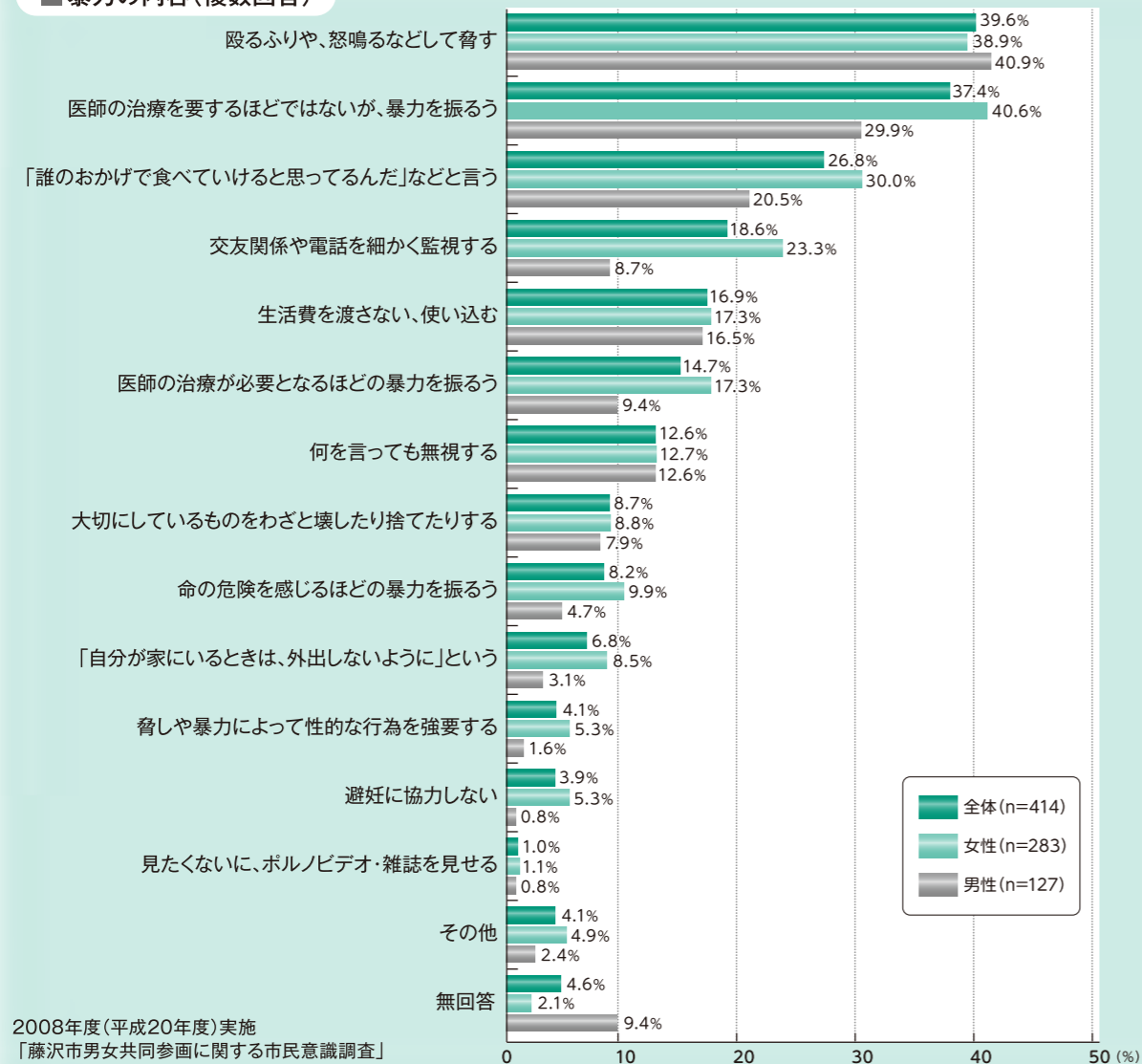
しかし、「暴力を振るわれたことがある」人は、女性が10.9%と約10人に1人の割合、男性は2.2%で約50人に1人の割合となっており、女性の被害者が多いことがわかります。

■ 暴力を振るわれたり、暴力を振るったり、身近で見聞きしたことはあるか(複数回答)



「身近に見聞きしたことがある」、「暴力を振るわれたことがある」、「暴力を振るったことがある」と回答した人に、「暴力の内容」を聞いたところ、「殴るふりや、怒鳴るなどして脅す」が39.6%と最も多く、続いて「医師の治療を要するほどではないが、暴力を振るう」(37.4%)、「『誰のおかげで食べていけると思ってるんだ』などと言う」(26.8%)となっています。

■ 暴力の内容(複数回答)



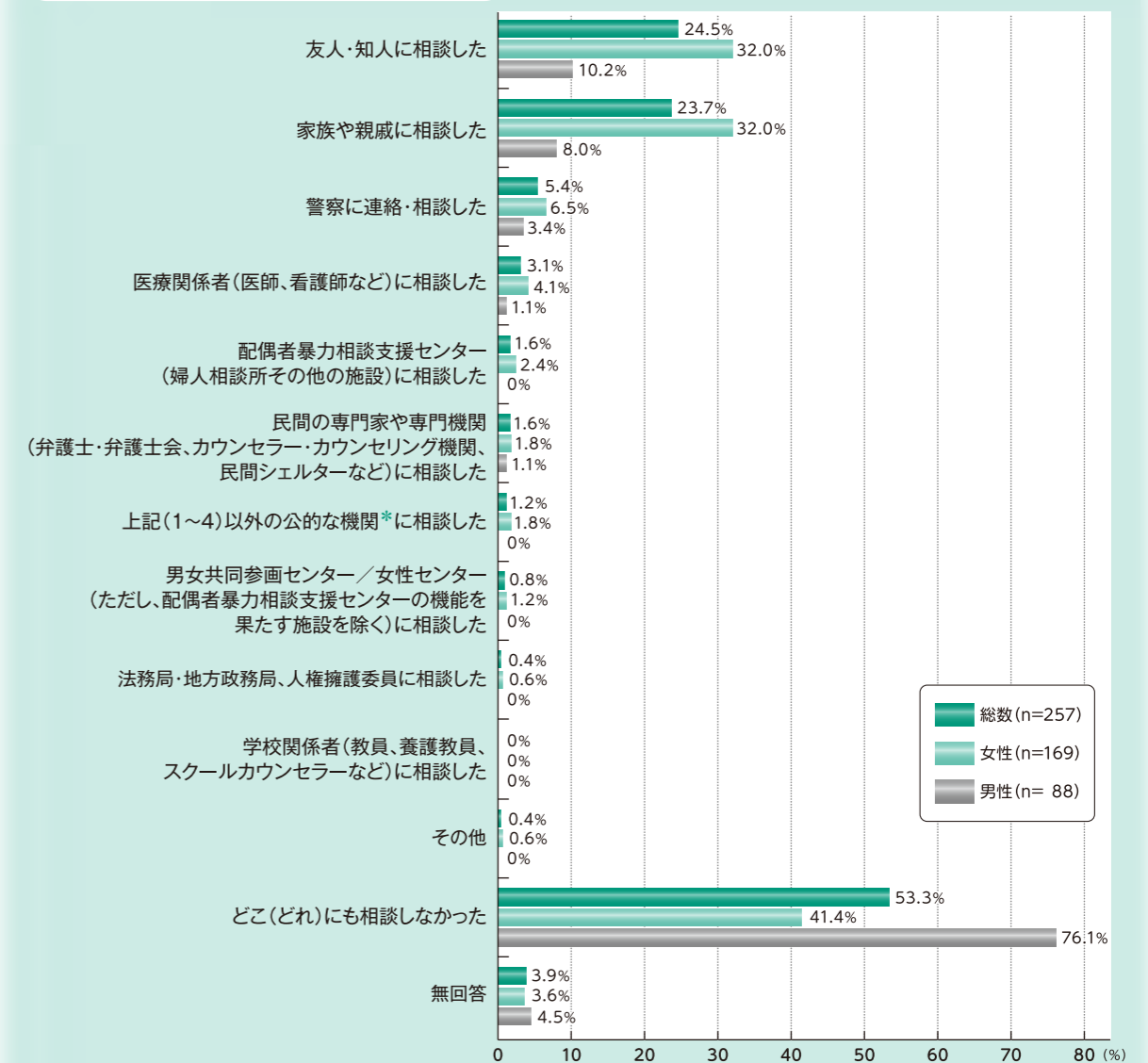
2 相談状況

(1) 相談先(全国の状況)

過去5年間に配偶者から何らかの暴力を受けた人に相談先を聞いたところ、「どこ(だれ)にも相談しなかった」という回答は女性で41.4%、男性で76.1%となりました。

相談先をみると、男女とも「友人・知人」(女性32.0%、男性10.2%)が一番多く、いずれも女性で約3割、男性で約1割となっています。次いで、「家族や親戚」(同32.0%、8.0%)、警察や配偶者暴力相談支援センター、男女共同参画センター、法務局・地方法務局等の公的機関である相談機関を利用した人は、女性で0.6~6.5%、男性で0~3.4%程度となっています。

■ 配偶者からの被害の相談先(複数回答)

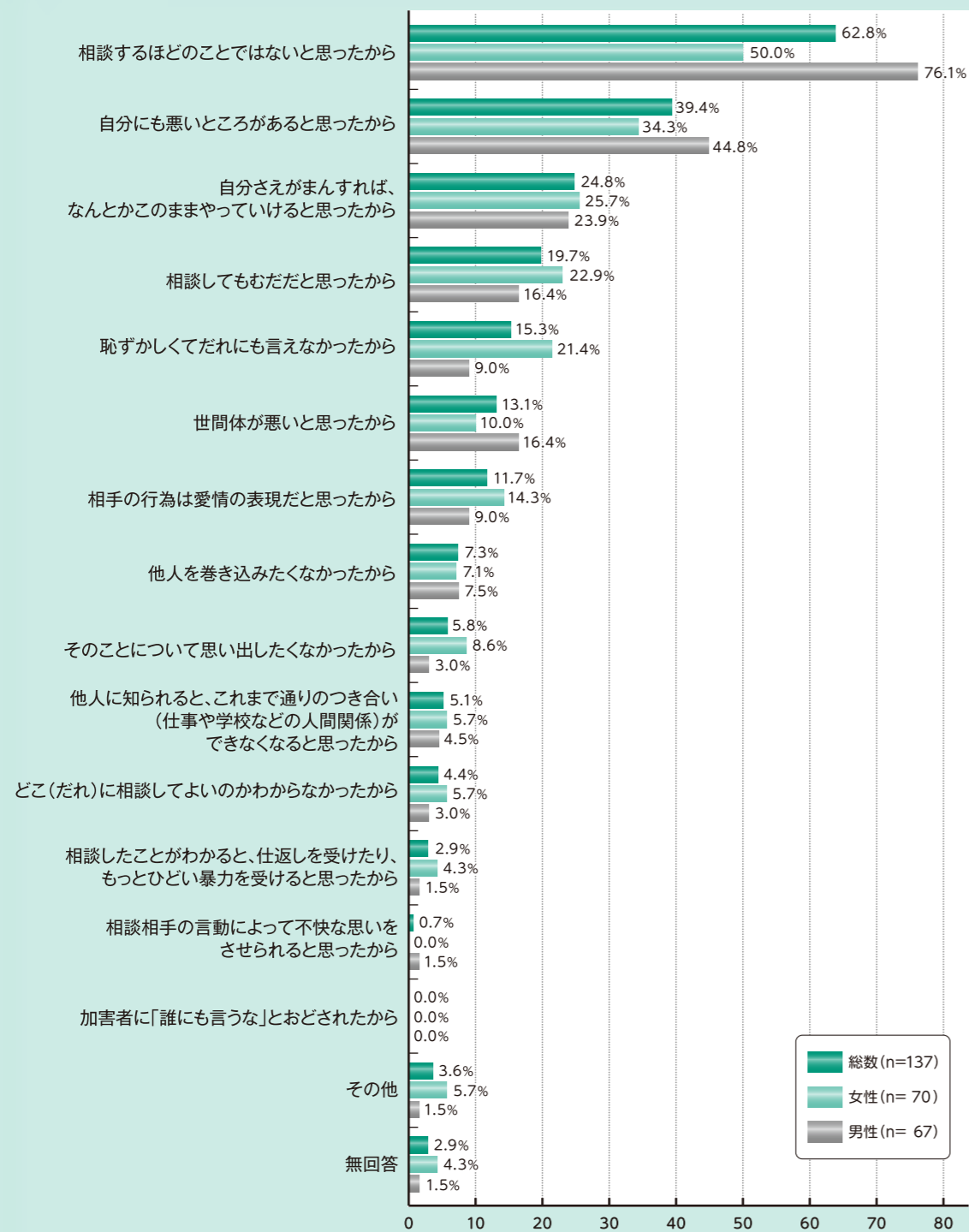


*「上記(1~4)以外の公的な機関」とは、下記以外の公的な機関を指す。

1. 配偶者暴力相談支援センター(婦人相談所その他の施設)
2. 警察
3. 法務局・地方法務局、人権擁護委員
4. 男女共同参画センター/女性センター(ただし、配偶者暴力相談支援センターの機能を果たす施設を除く)

どこ(だれ)にも相談しなかった人の相談しなかった理由をみると、「相談するほどのことではないと思ったから」(女性50.0%、男性76.1%)が最も多く、次いで「自分にも悪いところがあると思ったから」(女性34.3%、男性44.8%)となっています。

■ 相談しなかった理由(複数回答)

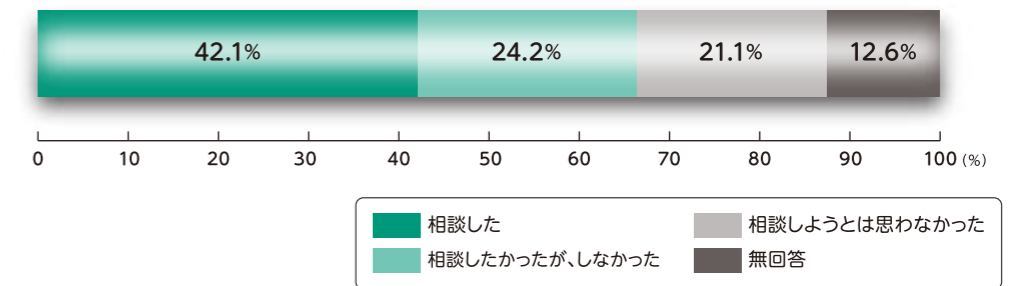


2011年度(平成23年度)実施 内閣府「男女間における暴力に関する調査」

(2) 相談先(藤沢市の状況)

「暴力を振るわれたことがある」と回答した人に、誰かに打ち明けたり、相談したかどうかを聞いたところ、「相談した」が42.1%と最も高くなっています。「相談したかったが、しなかった」が24.2%で約4人に1人の割合となっていることから、相談機関の周知が引き続き必要です。

■ 相談の有無(「暴力を振るわれたことがある(N=95)」と回答した人に質問)

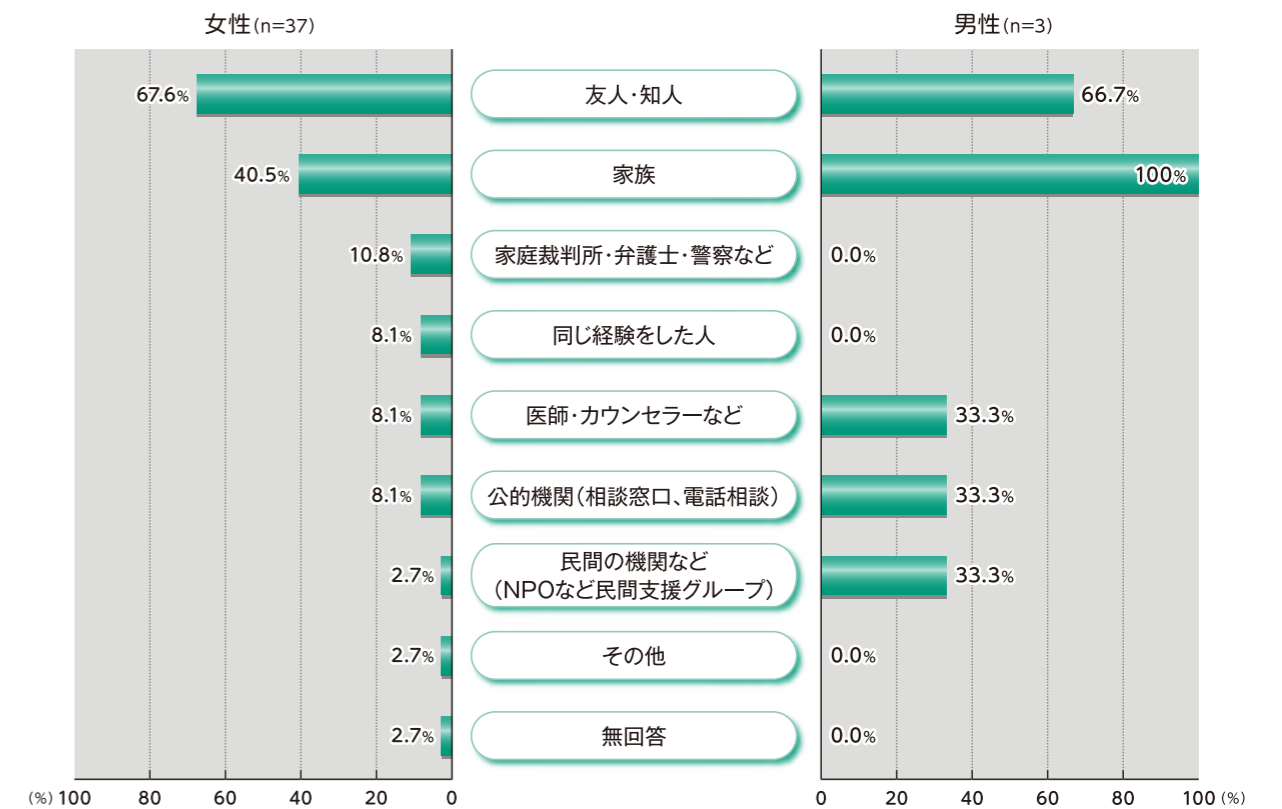


2008年度(平成20年度)実施「藤沢市男女共同参画に関する市民意識調査」

また、「暴力を振るわれたことがある」と回答した人で「相談した」と回答した40人に、実際にどこ(だれ)に相談したかを聞いたところ、女性は「友人・知人」(67.6%)、「家族」(40.5%)、「家庭裁判所・弁護士・警察など」(10.8%)の順となっています。

男性は全員が「家族」に相談していることがわかります。

■ 実際にどこ(だれ)に相談したか(複数回答)



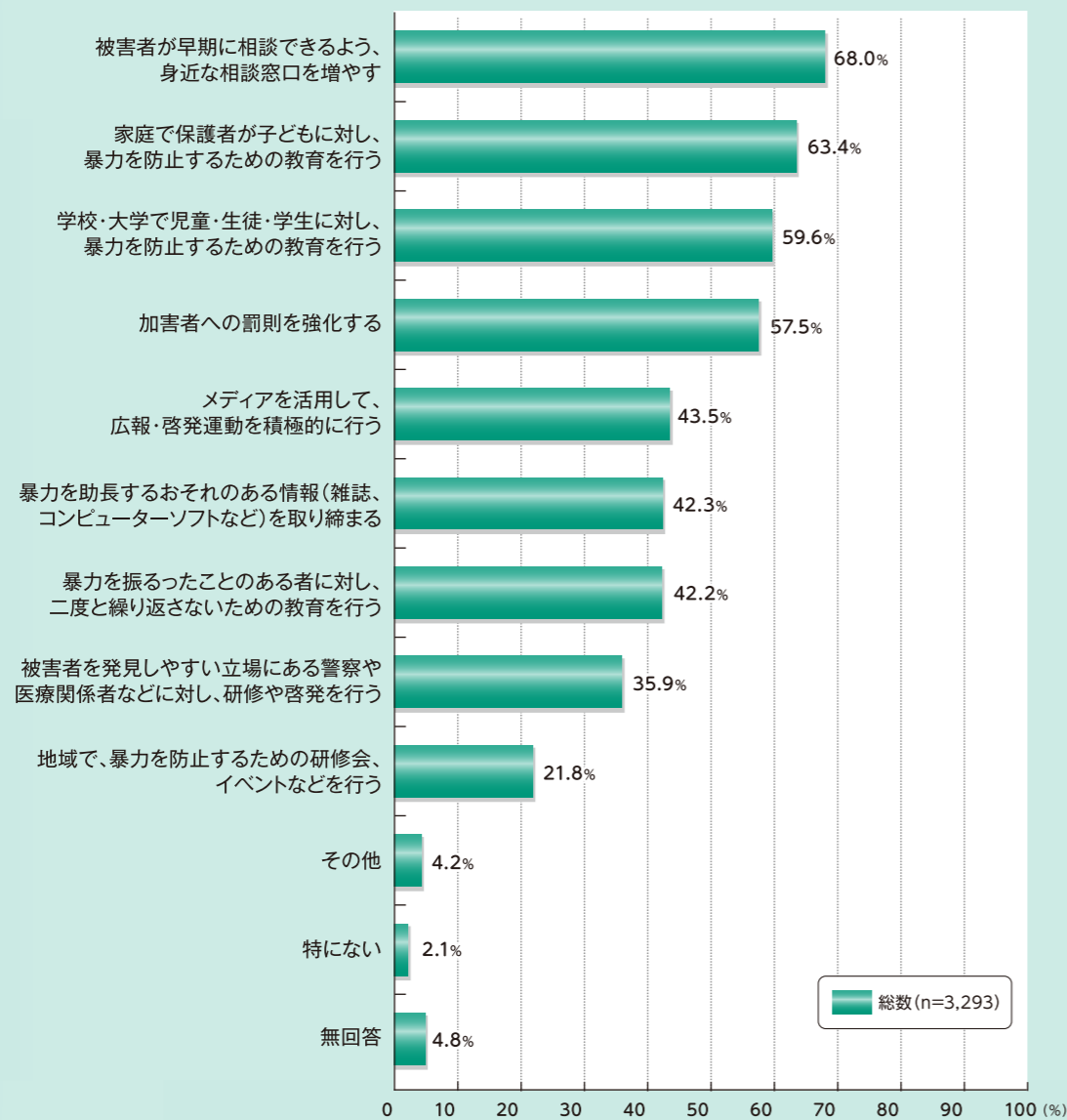
2008年度(平成20年度)実施「藤沢市男女共同参画に関する市民意識調査」

3 暴力をなくすために必要なこと

(1) 全国の状況

男女間における暴力を防止するために必要だと考えることを聞いたところ、「被害者が早期に相談できるよう、身近な相談窓口を増やす」が68.0%と最も多く、次いで「家庭で保護者が子どもに対し、暴力を防止するための教育を行う」(63.4%)、「学校・大学で児童・生徒・学生に対し、暴力を防止するための教育を行う」(59.6%)、「加害者への罰則を強化する」(57.5%)などとなっています。

■ 男女間の暴力を防止するために必要なこと(複数回答)



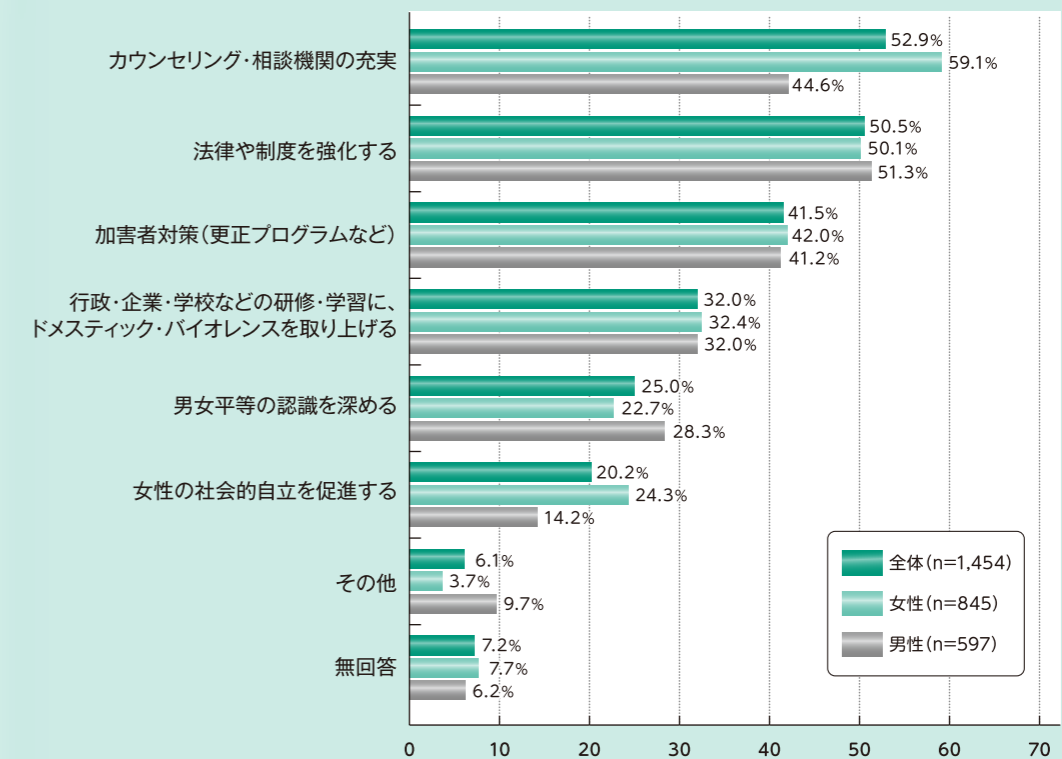
2011年度(平成23年度)実施 内閣府「男女間における暴力に関する調査」

(2) 藤沢市の状況

DVを防ぐために重要だと思うことを聞いたところ、「カウンセリング・相談機関の充実」が52.9%と一番多く、続いて「法律や制度を強化する」(50.5%)、「加害者対策(更正プログラムなど)」(41.5%)となっています。

男女別に見てみると、女性は上位4番目まで全体と同じですが、男性は上位2つが入れ替わり、「法律や制度を強化する」「カウンセリング・相談機関の充実」の順番になっています。

■ DVを防ぐために重要だと思うこと(3つまで選択可)



2008年度(平成20年度)実施「藤沢市男女共同参画に関する市民意識調査」

